

事業番号	06 01 02	事業改善シート（令和7年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	環境保全研究所費		部局	環境部	課・室	環境政策課			
			実施期間	H7 ～	E-mail	kankyo @ pref.nagano.lg.jp			

1 現状と課題

- ・気候変動による様々な影響や、新型コロナウイルス感染症を契機とする新興感染症の脅威が、これまで以上に身近に迫っている。
- ・また、大気環境では、一部の環境基準が未達成の状況であり、さらに、生物多様性の保全や野生鳥獣に係る問題も発生している。

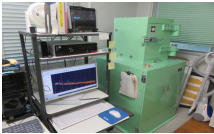
2 事業目的

- ・上記の課題に対応し、環境・健康を守るために試験検査、調査研究、学習交流・情報発信などを推進する。
 - 1 迅速で正確な検査により行政をバックアップ
 - 2 行政課題を反映させた調査研究の実施
 - 3 県民に開かれた信頼される研究所

3 事業目的を達成するための取組

①試験検査の実施及び危機管理事業への対応等

- ・環 境 分 野：環境保全推進のため、大気常時監視、原発事故に係る放射性物質検査など環境影響調査等
- ・保健衛生分野：健康づくり推進のため、新型コロナウイルス感染症に係る遺伝子検査や食中毒発生時の原因調査、食品中の残留農薬検査等
- ・外部精度管理：試験検査結果の信頼性の確保及び精度の向上のため、外部機関が行う精度管理事業に参加



<放射性物質検査>

②調査研究の推進

- ・環 境 分 野：大気環境、自然環境の保全、気候変動影響及び適応策等に関する調査研究
- ・保健衛生分野：感染症や食中毒、食品中の農薬実態等に関する調査研究



<遺伝子検査>

③学習交流・情報発信

- ・施設公開・親子環境講座：研究所の業務・施設を県民に公開
- ・自然ふれあい講座：自然と触れ合いながら自然環境の課題について学ぶ機会の提供
- ・信州自然講座：信州の自然環境について研究成果の発表と地域課題についての意見交換
- ・サイエンスカフェ：研究所の業務、研究の話題を提供して直接対話しながら科学について学ぶ機会の提供
- ・出 前 講 座：県民の要望に応じ、オンライン又は現地に出向き講演
- ・ホ ー ム ペ ー ジ：研究内容の紹介や活動の近況を発信



<サイエンスカフェ>

4 成果指標			(推移の凡例 ↗: 改善 ↘: 悪化 →: 変化なし ―: 数値なし)							
No.	指標名	単位	R5年度	R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	外部機関による試験検査に関する精度管理の受検結果(良好である項目の割合)	%	100	100	→	100	→	100	達成	外部機関による評価により公正な評価が期待できる。目標値はすべての項目について良好を目指すもの。
②	環境保全等に関する研究数	件	23	14	↘	12	↘	14	未達成	研究数は研究の活性度の指標となる。目標値は令和6年度の組織改編を考慮したもの。
③	学習交流等で参加者の満足度(アンケート調査による満足・おおむね満足の割合)	%	96	98	↗	97	↘	98	未達成	参加者の満足度は開催した講座等の啓発効果を測る指標となる。目標値は最近の結果を考慮したもの。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 (☆印が付いているものは主要目標)	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／年度	数値	年／年度	数値	年／年度	数値	年／年度	数値
1-1①	持続可能な脱炭素社会の創出										
1-1②	人と自然が共生する社会の実現	自然公園利用者数	万人	2023 (R5)	3,538	2024 (R6)	3,709	2025 (R7)	3,791	2027 (R9)	3,820
1-5②	充実した医療・介護提供体制の構築										

6 事業コスト

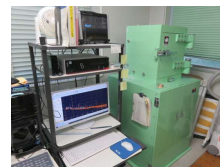
(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	144,853	△ 24,780	120,073	81,762	111,559	46.0
R6年度	0	82,126	△ 13,212	68,914	68,383	58,927	46.0
R5年度	0	93,288	△ 9,453	83,835	82,463	72,678	59.0

7 主な取組実績と成果

①試験検査の実施及び危機管理事案への対応等

- ・環境分野では、大気常時監視、原発事故に係る放射性物質検査など環境影響調査等を実施。
- ・保健衛生分野では、新型コロナウイルス感染症に係る遺伝子検査や食中毒発生時の原因調査、食品中の残留農薬検査等を実施。
- ・外部精度管理のため、外部機関が行う精度管理事業へ参加。



放射性物質検査

②調査研究の推進

- ・「1 現状と課題」に対応し、行政ニーズを踏まえて研究課題を設定。
- ・環境分野では、大気環境の保全に関する調査研究（「化学輸送モデルを用いた光化学オキシダント発生源の感度解析」等 3 題）、自然環境の保全、気候変動影響及び適応策等に関する調査研究（「大型哺乳類の保護管理にむけた個体特性および個体群構造の解明」、「地域の気候変動の実態と影響に関する研究」等 5 題）を実施（研究課題計 8 題）。
- ・保健衛生分野では、感染症の発生状況の把握等に関する調査研究（「呼吸器系ウイルスの疫学等に関する調査・研究」等 2 題）や食品の安全性の確保に関する調査研究（「農産物の残留農薬に係る分析法の確立と農薬残留実態調査」等 2 題）を実施（研究課題計 4 題）。



遺伝子検査



＜サイエンスカフェ＞

③学習交流・情報発信

- ・環境及び保健衛生に関する研究所の業務・施設について、県民の皆様を知っていただくため、施設公開、親子環境講座を安茂里庁舎、飯綱庁舎にて開催。参加者は延べ119名。
- ・自然ふれあい講座（「みんなで温暖化ウオッチ〜セミのぬけがらを探せ！2025」）を県内6会場で6回企画、5回開催（1回は雨天中止）。参加者は延べ69名。
- ・信州自然講座「開田高原の生物多様性と人の暮らし」と題して、木曽町文化交流センター多目的ホールにて、当研究所の職員による講演2題、信州大学及び岐阜大学による講演2題、開田高原を拠点に活動する市民グループによる講演1題のほか現地参加者にむけた企画展示を実施、参加者は延べ60名。
- ・山と自然のサイエンスカフェを2回（「信州の高山植物：その多様性を知る・守る」、「ライチョウ保全に登山者ができること」）、人と健康のサイエンスカフェを1回（「動物からうつる感染症を知っていますか？」）、計3回をくらしふと信州にて開催。参加者は延べ90名。
- ・研究所で調査・研究を行っている環境、保健衛生に関わるテーマについて、出前講座として県民の要望に応じ、現地に出向き講演を実施。令和7年度は「長野県の生物多様性」、「野生動植物の生態とその保全」、「野生動植物の生態とその保全」、「感染症とは」等のテーマで18回開催。参加者は延べ647名。
- ・ホームページを活用し、研究内容の紹介や活動の近況（調査研究における現場での調査活動、インターンシップなどの様子）を発信。
- ・情報誌を発刊（The信州エコ・へるす：年2回発刊・送付先305件、みどりのこえ：年2回発刊・送付先570件）。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	外部機関による試験検査に関する精度管理の受検結果(良好である項目の割合)	R6年度推移	→	R7年度推移	→	達成状況	達成
外部10機関の精度管理調査に参加し、全項目で良好な結果を得たため、当該指標の目標は達成できた。							
指標 ②	環境保全等に関する研究数	R6年度推移	↘	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
長野県の豊かな環境の保全と保健衛生の向上を図るため研究を実施した。研究課題を精査して柱となる研究に集約した課題もあり、研究規模は縮小していないものの課題数が減少した。							
指標 ③	学習交流等で参加者の満足度(アンケート調査による満足・おおむね満足の割合)	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
「満足・おおむね満足」の割合が各学習交流事業とも95%を超え、多くの参加者に満足いただいた。「やや不満・不満」はなかったが、「普通」の回答が多少あったことから目標値の98%を若干下回った。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・行政施策の立案の科学的裏付けや危機管理事象の原因究明調査のため、高度な検査が求められているが、それに対応する技術力の維持や、測定機器の老朽化などの課題がある。
- ・行政課題やニーズに則した調査研究が求められる。中長期的な視点を踏まえ、県民益や長野県の発展につながる研究テーマについて計画的に検討・設定していくことが必要。
- ・県民に開かれた研究所とするため、実施している業務や調査・研究の成果について、広くわかり易い情報発信が必要。

(2) 事業改善の方策

- ・高度化する検査に対応した技術を維持するため、国などが主催する研修等への積極的な参加や、OJTによる技術の継承を進め人材の育成を図るとともに、計画的に分析機器の更新を進める。
- ・翌年度に実施する研究課題について、早い段階から県庁関係課等の意見を聴取し、研究課題に行政の視点やニーズを反映させる取組を継続する。全国環境研究所協議会や地方衛生研究所全国協議会などへの参画、県内外の大学等との連携を通じて、先進的な取組や知見を収集し、中長期的な視点を踏まえ、県民益につながる調査研究を行う。
- ・当所の取組や環境・保健衛生に関する身近な話題を県民等に分かりやすく伝えるため、定期的に情報誌を発行するとともに、Youtubeなども活用しサイエンスカフェや公開講座などの広報活動を行う。

事業番号	06 01 02	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	環境保全研究所費		部局	環境部	課・室	環境政策課		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	環境保全研究所管理費		67,813 千円	50,172 千円	99,719 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	庁舎（安茂里、飯綱） 管理経費	直接	庁舎光熱水費 燃料費 施設修繕費 等 施設改修3箇所		
2	庁舎（安茂里、飯綱） 点検等経費	委託	消防施設保守点検業務 空調設備保守点検業務 電気保守点検業務 等 点検数5件		
3	環境保全研究所飯綱庁舎改修事業	委託	環境保全研究所飯綱庁舎の機能維持のための修繕及び省エネ化に対応するための設計 実施設計の完了		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	環境保全研究所研究等事業費		4,865 千円	8,755 千円	11,840 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	研究等事業費	直接	試験研究検査用品消耗品 医薬材料費 等 研究課題の推進12題、検査件数17,677件(放射能検査を除く。)		